

令和 8（2026）年度 第 1 回東近江市環境審議会 議事概要

◆開催日時 令和 8（2026）年 10 月 5 日（月）午後 2 時～

◆開催場所 東近江市役所 313・314 会議室

◆東近江市環境審議会委員（敬称略、順不同）

出席者 12 名

岸本 直之、山崎 亨、藤岡 康弘、西村 卓也、金 再奎、北川 陽子、加藤 紳一朗、熊倉 弘
富美、水野 扶美、上野 明美、大西 恒平、大前 勝利

欠席者 4 名

荒木 希和子、向 春美、山口 美知子、山北 文子

◆事務局

環境部 部長 山本 享志、次長 加藤 三奈子

森と水政策課 課長 小西 茂喜、課長補佐 藤井 盛浩、係長 久保田 雅士、主査 栗田 拓実

生活環境課 課長 田中 和則、課長補佐 西村 藤生、係長 横川 豊彦

資源再生推進課 課長 杉島 和仁、参事 勝田 一吉

◆次第

1 開会

2 自己紹介

3 会長、副会長の選出

4 会長あいさつ

5 議事

(1) 東近江市環境基本計画について

・第 2 次東近江市環境基本計画の実績報告

・第 3 次東近江市環境基本計画の概要

(2) 環境調査結果について

(3) 東近江市生活排水処理基本計画（中間見直し）について

(4) 東近江市食品ロス削減推進計画について

6 情報提供

・東近江市の主要な外来種の対応について

7 閉会

【資料】

次第、委員名簿、規則

資料 1：第 2 次東近江市環境基本計画の実績報告

資料 2：第 3 次東近江市環境基本計画の概要

資料３：環境調査結果まとめ

資料４：生活排水処理基本計画の中間見直し

資料５：東近江市食品ロス削減推進計画（素案）の目的・概要

資料６：東近江市の主要な外来種の対応について

【議事】

1 開会

山本環境部長から挨拶。

2 自己紹介

委員および事務局職員の自己紹介を実施。全 16 名中 12 名が出席し、定足数を満たしている旨を報告。

3 会長および副会長の選任

審議会規則に基づき、事務局案（会長：岸本直之 委員、副会長：向春美 委員）を提示し、拍手多数により選任・承認。

4 会長挨拶

選任された岸本会長より着任の挨拶。

5 議事

(1) 東近江市環境基本計画について（資料１、資料２）

事務局より、第２次環境基本計画の実績報告（資料１）および第３次環境基本計画の概要（資料２）について説明。

（委員意見）

- ・甲賀市では廃プラスチック安定型最終処分場建設による水質汚染が懸念されているが、東近江市に水源地保護条例等はあるのか。
- ・大規模な太陽光発電は推進しないとのことであるが、大雨時の既存太陽光発電の破損による周囲への影響が懸念されるが何か対策が取れないか。また、公の駐車場の屋根をパネル化するモデルケース作成を検討してほしい。

（事務局）

- ・水道に関する水源地域保護条例はあるが市全域適用ではないため、地下水調査を実施し現状把握に努めている。
- ・太陽光発電設備のための乱開発や景観問題への懸念は認識しており、屋根等の有効活用な

ど自然共生とのバランスを取りながら進めたい。モデル事業については参考にさせていただく。

- ・開発規制や景観を守るための条例の制定について庁内で議論を進めている。公共施設での屋根貸しや市民共同発電など、地域内で資金とエネルギーが循環する仕組みの再構築を模索している。

(委員意見)

- ・市は生物多様性地域戦略や 30by30 など先進的な取組を行っているが、市民へ十分に伝わっていない。努力によって環境が守られていることをよりPRすべき。また今年、夏の高水温で養殖のイワナやヤマメが大量死した例があるように、地球温暖化の影響が生活・生態系に及んでいる事例を引用しながら対策を進めるべき。さらに愛知川支流の渋川におけるビワマス仮設魚道設置の取組が実り、今冬から県が本格的な魚道を設置することになった実績も評価してほしい。

(事務局)

- ・生物多様性地域戦略が市民に伝わるようフォーラムや普及啓発チラシ等で周知を工夫する。温暖化対策も市民と一緒にできることを模索する。ビワマス魚道による遡上の取組も市民に知っていただけるよう情報発信していきたい。

(委員意見)

- ・食だけでなく衣料や繊維廃棄物の問題を「衣食住」のうち「衣」の部分の視点から取り入れてほしい。また麻織物など地場産業と豊かな水資源のつながりを市民に分かりやすくPRすべき。

(事務局)

- ・繊維類回収のPR強化に努める。また、近江商人由来の「しまつする」の精神であるモノの価値を最大限に活かすという考え方を市民に分かりやすい言葉で伝えていきたい。

(委員意見)

- ・「三方よし森里川湖インパクトファンド」の進捗状況を聞きたい。

(委員意見)

- ・生物多様性の保全活動への投資を行うため「三方よしパートナーズ」という会社を近々設立予定。貢献度評価を行った上で森里川湖の再生事業へ資金循環させる仕組みを構築中である。

(委員意見)

- ・伊吹だけでなく鈴鹿山脈周辺でもシカ食害による笹枯死や土砂流出が深刻化している。ガイドクラブでは、近自然工法等に取り組んでいるが、それだけでは対応が困難で資本も必要である。市民へのアピールや抜本的対策が必要。

(事務局)

- ・表土流出や保水力低下の課題を認識しており、地下水の勉強会なども実施している。また、関係部局や県との連携・働きかけを継続していく。

(2) 環境調査結果について（資料3）

事務局より説明。

⇒意見なし。

(3) 東近江市生活排水処理基本計画（中間見直し）について（資料4）

事務局より説明。次回の環境審議会にて報告・審議予定。

⇒意見なし。

(4) 東近江市食品ロス削減推進計画について（資料5）

事務局より、計画素案の骨子について説明。

(委員意見)

- ・甲賀市のようにごみステーションで生ごみを回収して堆肥化する仕組みの検討は可能か。

(事務局)

- ・甲賀市のような受け入れ事業者が市内におらず課題があるため、本市ではダンボールコンポストや処理機購入補助等により家庭内での処理・減量を推進している。

(委員意見)

- ・「食べ残しを捨てている市民の割合を減らす」など、行動変容に直結する具体的な目標設定が必要ではないか。

(事務局)

- ・貴重なご意見として受け止め、今後の素案策定の参考とする。

(委員意見)

- ・生鮮食品の乾燥や発酵など長期保存の知恵など、具体的な行動例を分かりやすく示すべき。

(委員意見)

- ・食べ残し等を生ごみとして捨てている市民の割合が65%というのは多い数値であるため、コンポスト補助制度のさらなる周知・利用推進が必要。

(事務局)

- ・食品をごみとして出さないことが最重点であるが、コンポスト等の推進も引き続き図っていく。

(委員意見)

- ・蒲生岡本町のように自治会単位で生ごみを出さない取り組み（大型コンポスト等）の好事例を横展開してほしい。

(事務局)

- ・自治会の好事例の横展開、分かりやすい情報発信に努めたい。

(委員意見)

- ・食品ロスを出さないため、冷蔵庫内の整理整頓やストック方法のノウハウの啓発ができないか。

(事務局)

- ・冷蔵庫内の点検や点検チェック等は計画内容に盛り込む予定である。

6 情報提供 主要な外来種への対応について（資料6）

事務局より、主要な外来種への対応について報告。

(委員意見)

- ・オレンジ色の花（ナガミヒナゲシ）もかなり増えてきているため注視してほしい。

(事務局)

- ・年数件の相談・連絡をいただいております、現地確認・状況把握を行っている。

7 今後のスケジュール

- ・第2回審議会：令和8年12月21日（月）午後2時～（313・314会議室）

8 閉会

全議事が終了し、閉会。